

会議録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 2 回枚方市食育推進計画審議会
開 催 日 時	平成 29 年 8 月 31 日(木) 13 時 00 分～
開 催 場 所	枚方市役所 別館 4 階 第 2 委員会室
出 席 者	春木敏会長、中村奈緒美副会長、有川智博委員、井上努委員、 宇佐見美佳委員、甲斐清子委員、金崎由紀恵委員、谷勲委員、 西谷彩子委員、東尾康子委員、松本容子委員
欠 席 者	田中絹代委員
案 件 名	1. 第 3 次枚方市食育推進計画の骨子について 2. 第 3 次枚方市食育推進計画の策定にあたって 3. 枚方市における食をめぐる現状と課題について 4. 第 3 次枚方市食育推進計画の基本方針と目標について 5. その他
提出された資料等の 名 称	資料 1. 第 3 次枚方市食育推進計画 骨子 新旧対照表 (案) 資料 2. 第 3 次計画の策定にあたって 資料 3. 枚方市「食」に関する市民意識調査アンケート結果 資料 4. 枚方市における食をめぐる現状と課題について 資料 5. 基本理念 (案) 資料 6. 基本方針 (案) 資料 7. 目標一覧 (案) 参考資料① 第 3 次食育推進基本計画 (概要版) 参考資料② 各課における取組実績一覧 別紙① 第 3 次枚方市食育推進計画策定にかかるご意見・ご提案 (回答様式) 別紙② 日程調整表

決 定 事 項	第3次枚方市食育推進計画の目標についての意見を頂いた後、事務局にて必要な修正を行い、次回の本審議会で再度確認することとした。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の 別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	健康部 健康総務課

審議内容	
中村副会長	<p>皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、枚方市食育推進計画審議会を始めさせていただきます。本来でありましたら、春木会長が司会進行をさせていただくところですが、少し遅れられるということですので、それまでの間、私が進行させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、健康部の白井部長とそれから西岡次長は、他の公務のため途中で退席されるとのことですので、ご了承くださいませようよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事務局から本日の委員の出席状況と傍聴希望者について、ご報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日の委員の出席状況は、委員12名中10名の出席をいただいておりますので、枚方市附属機関条例第5条第2項の規定に基づきまして、本会議が成立していることをご報告させていただきます。また、本日の傍聴希望者は、ございません。</p> <p>以上でございます。</p>
中村副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは今年度第2回目の開催ですので、早速案件に入りたいと思います。</p> <p>案件1「第3次枚方市食育推進計画の骨子について」、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>説明に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、次第がございまして、その次に資料1、資料2、それから資料3、資料4、資料5、資料6、資料7、参考資料①、参考資料②、カラー刷りのレシピが書かれた「枚方キッチン」、あと別紙1、別紙2。配付資料は、以上でございます。</p> <p>過不足等ございませんでしょうか。</p> <p>では、失礼ながら着座にてご説明させていただきます。</p> <p>それでは、案件1「第3次枚方市食育推進計画の骨子について」ご説明させていただきます。</p> <p>資料1をご覧ください。</p> <p>こちらの資料は、左側に事務局の案として第3次計画の骨子の案を、右側に現行の第2次計画の骨子をお示しし、変更箇所を下線を引いた新旧対照表となります。第3次計画につきましては、4つの章立てと資料編という構成で、大きな流れとしましては、まず第3次計画の位置づけや計画期間などの概要をお示しし、次に、これまで行ってきた取り組みと評価を行い、そこから見えてくる課題を今後の取り組みにつなげてい</p>

	<p>くため、理念や基本方針を定め、その基本方針に沿った数値目標を掲げ、最後に、具体的な取り組みをお示しするというものです。</p> <p>順にご説明させていただきます。</p> <p>まず、「第1章 第3次枚方市食育推進計画策定にあたって」です。ここでは、計画の位置づけや本市の関連計画、計画の策定体制と推進体制、計画の期間など、計画の基本的な概要を記載いたします。</p> <p>次に、「第2章 枚方市における食をめぐる現状と課題」です。ここでは、枚方市におけるこれまでの取り組みや、今現在の枚方市の食をめぐる現状、そして、それを踏まえた第2次計画の評価と課題をお示しします。食をめぐる現状は、第2次計画ではライフステージ別に記載しておりましたが、第3次計画では項目ごとに記載しようと考えております。詳細につきましては、後ほど案件3においてご説明させていただきます。</p> <p>次に、「第3章 第3次枚方市食育推進計画の基本方針と目標」です。この章では、先ほどの第2次計画の評価と課題、そして、国の第3次基本計画の内容を踏まえて、基本理念そして基本方針を定め、その基本方針ごとに数値目標を設定します。そして、その目標の進行管理及び評価について、食育推進の体系や食育推進のための役割、ライフステージごとのめざす姿について記載しようと考えております。</p> <p>続きまして、裏面をご覧ください。</p> <p>「第4章 重点施策と具体的な取組」です。ここでは、重点施策や基本方針ごとに取り組み事業、そして取組の対象ライフステージ一覧を記載いたします。</p> <p>最後に、資料編ということで、関連する法令や今回行った市民意識調査などの結果を掲載していこうと考えております。</p> <p>骨子についての説明は以上でございます。</p>
中村副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいま事務局から説明がありました、「第3次枚方市食育推進計画の骨子について」、何かご意見やご質問等はございませんでしょうか。</p> <p>無いようでしたら、続きまして、案件2「第3次枚方市食育推進計画の策定にあたって」、事務局のほうから説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、案件2「第3次枚方市食育推進計画の策定にあたって」について説明させていただきます。</p> <p>資料2をご覧ください。</p> <p>まず「1. 第3次計画の位置づけ」についてですが、前回の審議会においてご説明いたしましたとおり、平成28年3月に国において第3次食育推進基本計画が策定され、本市におきましても引き続き総合的かつ計画的に食育を推進していくため、食育基本法第18条に基づく市町村計画として、平成29年度に第3次計画を策定するものです。</p>

	<p>次に、「2. 本市の関連計画」は、記載のイメージ図のとおりでございます。</p> <p>次に、裏面に移りまして「3. 計画の策定体制と推進体制」についてですが、計画の策定体制は、前回ご説明いたしましたとおり、中段のイメージ図のとおりでございます。推進体制は、下段のイメージ図のとおり、枚方市における食育の推進は、枚方市と枚方市食育推進ネットワーク会議が行い、推進していくための指針となる計画づくりとその評価は、枚方市食育推進計画審議会が行うというイメージでございます。</p> <p>次に「4. 計画の期間」についてですが、国の第3次基本計画と、現在、大阪府が策定事務を進めている第3次大阪府食育推進計画の計画期間は5年間とされておりますが、本市の第3次計画の期間は、大阪府と同様、密接に関連する健康増進計画との連携をはかるため、計画期間の終期を第2次枚方市健康増進計画に合わせ、平成30年度から平成35年度までの6年間とし、今後の社会情勢の変化を踏まえ、必要に応じて見直しが可能であるという記述を考えております。</p> <p>「第3次枚方市食育推進計画の策定にあたって」の説明は以上でございます。</p>
中村副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいま事務局のほうから説明がありました「第3次枚方市食育推進計画の策定にあたって」、何かご意見やご質問等はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、次の案件に入りますが、ここで健康部白井部長と西岡次長は、他の公務のため退席されます。</p>
健康部白井部長	<p>勝手しますが失礼いたします。残りの案件についても、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
中村副会長	<p>それでは続きまして、案件3「枚方市における食をめぐる現状と課題について」事務局のほうから説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、案件3「枚方市における食をめぐる現状と課題について」ご説明させていただきます。</p> <p>資料3「枚方市『食』に関する市民意識調査アンケートの結果」併せまして、次の資料4「枚方市における食をめぐる現状と課題」をご覧ください。</p> <p>資料4は、資料3の市民意識調査の結果やその他の各種アンケート結果から、第2次計画の評価に関連するものや、第3次計画で掲げる基本方針や数値目標などに関連するものを抜粋し、まとめたものになります。</p> <p>まず、今回の市民意識調査についてですが、前回の審議会でもご説明させていただいたとおり、20歳以上の市民から無作為抽出した</p>

3, 000人を対象に実施したもので、回答者数は1, 236人、回収率は41.2%でした。内訳としましては、男性が459人、女性が772人、無回答が5人でした。

アンケート結果の詳細につきましては、資料4の「枚方市における食をめぐる現状と課題」に基づいてご説明させていただきます。資料4をご覧ください。

まず、第3次計画の第2章にあたる「枚方市における食をめぐる現状と課題」ですが、1ページ目に構成をお示ししております。

大きな構成としましては、

1. これまでの取組
2. 食をめぐる現状
3. 第2次枚方市食育推進計画における指標の達成状況
4. 第2次枚方市食育推進計画の評価と課題

でございます。

2. 食をめぐる現状ですが、第2次計画では、ライフステージごとに記載しておりましたが、第3次計画では、分野別、内容ごとに記載したほうが分かりやすいのではと考え、構成を変更しております。

まず、1. 健康分野の現状です。内容としましては、健康状態や食生活、食の安全・安心について記載いたします。

次に、2. 生産分野の現状、3. 環境分野の現状、4. 保育・教育分野の現状、5. 地域における現状。構成については、以上でございます。

また、この第2章を作成するにあたってのポイントですが、食をめぐる現状については、各種アンケート結果や統計を参考に、グラフを中心とした形で掲載いたします。また、グラフ等の説明につきまして、主観的な見解は述べず、客観的に読み取れる内容のみを記載しております。基本的には、第2次計画で使用した統計の最新版を掲載しておりますが、一部現状に即した内容に改変しております。第2次計画の評価と課題については、今後の基本方針や目標と合わせて検討していきたいと考えております。

続きまして、詳細を説明させていただきます。

2ページ目をご覧ください。

「1. これまでの取組」としまして、枚方市における取り組みを基本方向ごとに記載しております。

次に、4ページ目をご覧ください。

「2. 枚方市の食をめぐる現状」です。ここでは、第2次計画の指標に関連するものや第3次計画に掲げる目標に関連するものなど、主なものを中心に説明させていただきます。

6ページをご覧ください。

第2次計画の包括指標となっています(2)食生活の「食育に関心のある人」と「食育活動を実践している人」でございますが、食育に関心があるという割合は「とても関心がある」「どちらかといえば関心がある」

を合わせまして77%となり、性別で見ますと、男性で66%に対し、女性では83.8%と、女性のほうが17.8ポイント高い傾向にあります。

食に関する行動や活動をしているという割合は、「積極的にしている。」「できるだけ、するようにしている」を合わせまして68.6%を占めています。性別で見ると、男性で57.7%に対し、女性では75.4%と、女性のほうが17.7ポイント高い傾向にあります。

次に7ページをご覧ください。

「幼児の欠食」についてですが、1日の食事回数が3回に満たない幼児は、全体で1%未満となりました。年齢別で比較したところ、1歳6カ月児が0.7%と、2歳6カ月児や3歳6カ月児よりも高くなりました。

その下の「小学校6年生・中学校3年生の朝食の摂取状況」は、枚方市の小学校6年生の回答では、「あまり食べていない」「全く食べていない」の回答が合わせて5.9%。中学校3年生では7.9%でした。小学校6年生、中学校3年生ともに大阪府の平均を下回る結果となっています。

その下の「高校生の朝食の摂取状況」は、81.8%が毎日朝食を食べている一方で、6.6%が朝食をほとんど食べておらず、また、女子より男子のほうが欠食率が高い傾向が見られます。

次に、8ページをご覧ください。

「大学生・専門学校生の朝食摂取状況」は、71.3%が毎日朝食を食べている一方で、9%が朝食をほとんど食べておらず、また、こちらも女性より男性のほうが欠食率が高い傾向が見られます。

その下「20歳以上の市民の朝食の摂取状況」は、86.7%が毎日朝食を食べている一方で、5.3%が朝食をほとんど食べておりません。また、こちらの資料には記載はありませんが、年齢別に見ますと、20歳代、30歳代の欠食率が10%以上となっており、20歳代、30歳代の若い世代の欠食率が高いという結果も出ております。

朝食を食べない理由としましては、どの世代も「少しでも長く寝たいから」「朝は忙しく時間がないから」が多く、そのほか、高校生・大学生・専門学校生は「食欲がないから」、20歳以上では「朝昼兼用になっている」が次に多い結果となりました。

続きまして、10ページをご覧ください。

「主食・主菜・副菜がそろった食生活（年齢別）」ですが、1日のうち2食以上主食・主菜・副菜がそろった人の割合は、70歳代が74.8%で最も高く、40歳代が46.6%で最も低い結果となりました。50歳代以上は、いずれも60%を超える高い数値であるのに対し、30歳代が48.1%、20歳代が51.1%となり、20歳代から40歳代が低い結果となりました。

次に11ページをご覧ください。

「家族や友人など、誰かと一緒に食べる共食について」ですが、朝・昼・夕食を「誰かと一緒に食べている」または「誰かと一緒に食べることが多い」という割合について、全体で見ると、夕食では74.8%を占めており、昼食は52.3%、朝食は51.8%となっております。

14ページをご覧ください。

1番下の「食品ロスについて」です。食べ残しや手つかず食品を家庭で処分することがあるという割合は、「よくある」「時々ある」を合わせまして全体では41.1%となり、性別で見ると男性で37.9%に対し、女性では43.2%と5.3ポイント高い結果となりました。

次に、22ページの第2次枚方市食育推進計画における指標の達成状況をご覧ください。A3サイズの資料になります。

各指標の達成状況を順に説明させていただきます。

まずこちらの資料は、一番左に「第2次計画の指標」、その右隣に「調査方法」、その隣に「第2次計画策定時の数値」、その隣に「中間評価時の実績値」、その横が今回実施しましたアンケート結果の「現状値」、そしてその横が、「第2次計画の目標値」、そして「達成状況」、「調査担当課」という一覧になります。

順番にご説明させていただきます。

①「食育に関心のある人の増加」です。こちらは、目標値90%に対しまして現状値77%で、目標を達成しておらず、第2次計画策定時の80.3%より悪化しましたので、達成状況はC評価となります。

②「食育活動を実践している人の増加」です。目標値70%に対しまして現状値68.6%で、目標を達成していませんが第2次計画策定時の57.0%より改善はしているためB評価となります。

③「親子で取り組める食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園の増加」です。目標値100%に対しまして、現状値82.7%で、目標を達成しておらず、また、第2次計画策定時の87.2%より悪化しましたので、C評価となります。

④-1「欠食のある幼児の減少」です。目標値0%に対しまして現状値0.4%で、目標を達成していませんが、第2次計画策定時の0.5%より改善しているため、B評価となります。

④-2「朝食を欠食している小中学生・高校生の減少」です。小学6年生、中学3年生、高校生全て0%を目標にしておりましたが、現状値は、小学6年生が5.9%、中学3年生が7.9%、高校生が6.6%で、小学6年生が2次計画策定時より悪化しましたので、C評価となり、中学3年生、高校生は第2次計画策定時より改善しておりますので、B評価となります。

④-3「朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少」です。男性が目標値10%、女性が目標値5%。それに対しまして、現状値は、男性が15.5%、女性が5.8%です。いずれも目標を達成しておらず、男性は第2次計画策定時13.1%より悪化しましたので、C評価とな



り、女性が、第2次計画策定時5.9%より改善しているため、B評価となります。

⑤「1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加」です。こちらは、目標値100%に対しまして現状値89.4%で、目標は達成していませんが、第2次計画策定時の89.1%より改善しているため、B評価となります。

⑥「歯科検診を受けている人の増加」です。こちらは目標値4,500人に対しまして現状値4,286人で、目標は達成していませんが、第2次計画策定時の2,852人より増加しているためB評価となります。

⑦「食育に関する基礎的な知識を有する人材の増加」です。こちらは、「ひらかた食育Q&A」の参加者数を数値としてカウントしております。大人用が目標値3,000人、子供用が目標値1万1,000人に対しまして現状値が、大人用3,493人、子供用1万1,131人です。どちらも目標を達成しておりますので、A評価となります。

⑧「地域人材を活用した食育活動を行っている小中学校の増加」です。目標値80%に対しまして現状値59.7%で、目標を達成していませんが、第2次計画策定時の57.1%より改善しているため、B評価となります。

⑨「ボランティアが行う食に関する教室への参加者の増加」です。目標値2,000人に対しまして現状値が786人で、目標を達成しておらず、また、第2次計画策定時の1,118人より減少しているため、C評価となります。

⑩「1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加」です。こちらの指標は、⑤の再掲となりますので、先ほどご説明させていただいたとおりとなります。

⑪「学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加」です。こちらは目標値30%に対しまして現状値33.1%で、目標を達成しておりますので、A評価となります。

⑫「地元農産物直販会の開催数の拡大」です。目標値850回に対しまして現状値829回で、目標を達成していませんが、第2次計画策定時の819回より開催数が増えているため、B評価となります。

⑬「食べ残しや手つかず食品を処分することが多い人の減少」です。目標値20%に対しまして現状値41.1%で、目標を達成しておらず、また、第2次計画策定時の39.5%より悪化したため、C評価となります。

⑭「食の安全性に関する正しい知識をもち実践している人の増加」です。目標値65%に対しまして現状値22.3%で、目標を達成しておらず、また、第2次計画策定時の52.6%より悪化したため、C評価となります。

指標における達成状況の説明は以上でございます。

続きまして、23ページをご覧ください。

指標における達成状況を踏まえまして、第2次計画の評価と課題を基本方向ごとにまとめたものになります。順にご説明させていただきます。

まず、包括指標の評価と課題です。「食育に関心のある人の増加」の指標では、「とても関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせまして77%で、第2次計画策定時より3.3ポイント悪化しており、目標値90%には至りませんでした。年齢別に見ますと、50歳以上の世代は76%以上あるのに対し、20歳代は57.8%、30歳代・40歳代はともに72.6%と、20歳代から40歳代は他の世代より低い傾向にあります。

また、「食育を実践している人の増加」では、「積極的にしている」「できるだけするようにしている」を合わせて68.6%で、第2次計画策定時より10ポイント以上改善していますが、目標値70%には至らず目標達成はできませんでした。年齢別に見ると、50歳代から70歳代の世代は70%を超えているのに対し、20歳代は45.6%、30歳代は66.4%、40歳代は64.4%と、20歳代から40歳代は、他の世代より低い傾向にあります。

特に20歳代が食育に対する関心が低く、食育を実践している人も少ないことが顕著となっています。食に関する知識が乏しく、健康であるが故に意識が低い若い世代に対して効果的な働きかけを行い、さらにこれから親になる世代として、食に関する知識や取り組みを次世代に伝えつなげていけるよう食育を推進する必要があります。

続きまして、基本方向1「健全な食生活の実践」です。

「欠食のある幼児の減少」や「1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加」「歯科検診を受けている人の増加」の指標につきましては、目標達成には至りませんでした。第2次計画策定時よりも改善されています。

また、朝食を欠食している小中学生・高校生・大学生・専門学校生は依然として見受けられ、第2次計画策定時よりも悪化している世代もありました。このため、これらの若い世代に対して、食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を増進する健全な食生活を実践することができるよう推進する必要があります。

続きまして、基本方向2「ネットワークによる食育推進と食文化の継承」です。

食育に関する基礎的な知識を有する人材の増加のため、ひらかた食育理解度チェック（平成26年度～ひらかた食育Q&A）を実施しており、参加者数の目標値を達成したほか、地域人材を活用した食育活動を行っている小中学校は、第2次計画策定時から2ポイント改善はしているものの、まだ6割程度にとどまっています。

また、ボランティアが行う食に関する教室への参加者は、第2次計画策定時から数値が悪化していますが、これは、これまでボランティアが

	<p>行う料理教室に積極的に参加していたグループが、食に関する知識や経験を積んだことで独立し、自ら料理教室を行うことになったため参加者数が減少したものです。数値は悪化したものの、理由を鑑みますとボランティアによる食育推進活動が食に関する知識等を有する人材の増加に効果的であることがわかります。</p> <p>次に24ページをご覧ください。</p> <p>基本方向3「地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進」です。</p> <p>学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率は、目標を達成することができたとともに、地元農産物直販会の開催数も目標達成には至らなかったものの、高齢化による直販会の減少傾向の中でも10回増やすことができ、今後も引き続き消費者と生産者との交流を深め、地元農業への関心を高める機会の提供に取り組む必要があると考えます。</p> <p>また、食べ残しや手つかず食品を処分することが多い人が約1.5ポイント増加しました。食品ロスの問題を8割弱の市民が知っている一方で、実際に行動できていないことから、今後も引き続き食品ロス削減の必要性について認識を深め、自ら主体的に取り組むことができるよう推進する必要があると考えます。</p> <p>基本方向4「食の安全・安心の確保と安全性や栄養等の情報発信」です。</p> <p>食の安全性に関する正しい知識をもち、実践している人が第2次計画策定時52.6%、中間評価時45.5%、現状が22.3%と段階的に減少し、策定時と比較しまして半分以上にまで減少する結果となりました。これは、市としてさまざまな啓発活動を行ってきたものの、アンケートの結果に直接結びつかず、目標達成には効果が低かったことがいえます。</p> <p>また、平成24年度と平成27年度に実施したアンケートと、平成29年度に実施したアンケートの設問の問い方を改めたことも要因の一つと考えられます。</p> <p>食品の安全に関する情報が氾濫する中、食品安全に対する市民の関心や不安は依然として高い傾向にあります。市民に対して正しい情報を発信するとともに、市民一人ひとりが情報を正しく選択できる力を身につけられるよう、食の安全・安心を確保する食育の取り組みを、引き続き推進していくことが必要です。</p> <p>以上が、基本方向ごとの評価と課題になります。</p> <p>案件3の説明は、以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま事務局から説明がありました、「枚方市における食をめぐる現状の課題について」、何かご意見やご質問等はございませんでしょうか。</p> <p>22ページのA3判の表の基本方向2「ネットワークによる食育推進と食文化の継承」の項目のところで、ずっと右に現状値があるのですが、</p>
中村副会長	
宇佐見委員	

事務局	<p>現状値の中で786人、枚方市健康づくり食生活改善協議会19回というのがあるのですが、これはまだ今年度全てが終わってないので19回ということなのでしょうか。</p> <p>こちらに入れさせていただいている現状値の数値ですが、市民意識調査や保育所・幼稚園・学校などに取らせていただいたアンケートは今年度の結果になっているのですが、それ以外の、今おっしゃっていただきました食生活改善協議会さんのこの実績などは、全て平成28年度の実績を入れさせていただいておりますので、平成28年度に19回という実績となっております。</p>
宇佐見委員	<p>そうしましたら、中間評価時47回、第2次計画策定時41回と比べると大分少ないのですが、これは何か理由があるのですか。</p>
事務局	<p>事務局でお伺いしておりますのが、先ほどのこの資料の23ページの評価と課題の一番下の基本方向2の下から5行目のところの、「またボランティアが行う」という書き出しから始まっているところですが、これまで食生活改善協議会さんが実施されていた料理教室に参加されていたグループの方々が平成28年度に独立をされて、自分たちで料理教室を行うことになったため、その分の回数が減ったと聞いております。頻度としては月に2回程度されていたようですので、年間で24回程度はその理由で減ってしまったのではないのかとお聞きしております。</p>
宇佐見委員	<p>ありがとうございます。</p>
中村副会長	<p>他にございませんか。</p>
谷委員	<p>24ページの食品ロスの件ですが、センターの減量推進委員の会議に行きまして、枚方市も京田辺市と枚方市と共同で今度焼却場をつくるという話があったのですが、ここには、「取り組む必要がある」など、少し抽象的な表現がされていますが、これは、減量業務室とのすり合わせはされているのですか。</p> <p>減量業務室では、日曜日に冷蔵庫のチェックをしようという取り組みの話が出ていました。その辺の話との整合性が欠けているように思うのですが。</p>
事務局	<p>実際に食育推進の取り組みの中に減量業務室が行っております食品ロスの取り組みというのにも含まれておりまして、恐らく、谷委員がおっしゃっていただいているのは、「食べのこサンデー」という、日曜日には食べ残しを意識しようという取り組みだと思うのですが、そういうものも食育の取り組みに含んでおります。</p>

	<p>実際、2次計画の評価を受けまして、3次計画策定に当たりまして、引き続き重要なポイントであると認識しておりますので、減量業務室の取り組みについても、相談・確認しながら推進をしていきたいと、事務局として考えております。</p>
<p>進藤減量業務室 課長</p>	<p>減量業務室の進藤です。</p> <p>「食べのこサンデー運動」というのは、この7月から取り組んでいるものでして、今後は食育推進計画との進捗を一緒に管理しながらやっていくことになるかと思えます。食品ロス削減のために何らかの行動を行った人という数値目標の中で、「食べのこサンデー」で日曜日に冷蔵庫をチェックした方についても統計を取っていきたいと考えておりますので、今後は一緒に進めていくことになると考えております。</p>
<p>谷委員</p>	<p>かなり大幅にごみ減量をやっていかないと、相当無駄な事業になると思うので、もっと強くごみ減量を進めていかないといけないと思います。個人消費ももちろんそうですけれども、業務用もやはり減らしていかないと、目標値は達成しないと思います。</p>
<p>中村副会長</p>	<p>他にございませんでしょうか。</p>
<p>春木会長</p>	<p>会長の春木でございます。</p> <p>会議に遅れてしまい申し訳ありませんでした。</p> <p>副会長にここまで進行していただきまして、ありがとうございます。ここでバトンタッチさせていただきまして、私が進行させていただきます。</p> <p>続きまして、案件4「第3次枚方市食育推進計画の基本方針と目標について」、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、案件4「第3次枚方市食育推進計画の基本方針と目標について」、これまで記載してきました第2次計画の評価と課題、国の第3次食育推進基本計画を踏まえまして、枚方市の第3次計画の「基本理念」や「基本方針」、「目標」につきまして、事務局の案をお示しさせていただきます。</p> <p>まず、「基本理念」と「基本方針」についてご説明させていただきます。資料5をご覧ください。</p> <p>第3次計画の基本理念(案)につきまして、第2次計画を踏襲しつつ、国の第3次食育推進基本計画の重点課題である「健康寿命の延伸」というキーワードを理念の中に取り入れ、中段の枠内の網掛け箇所に追記しております。</p> <p>基本理念(案)は、「子供から高齢者まで、一人一人が『食』に関する正しい知識と、『食』を選択する判断力を身につけ、生涯にわたり健康寿</p>

命の延伸につながる健全な食生活を実践するとともに、家庭、保育所（園）、幼稚園、学校、地域、生産者等が相互に連携し、ネットワークを築きながら市民運動としての食育の推進に取り組む」としております。

続きまして、資料6をご覧ください。

こちらは、先ほどの基本理念や第2次計画の評価と課題、国の第3次計画の重点課題を踏まえまして、本市の第3次計画の4つの基本方針（案）を記載したものでございます。

参考といたしまして、その中段から下にかけて、国と府の第3次計画の方針と本市の現行の第2次計画の基本方向を記載しておりますので、こちらも合わせてご覧ください。

まず、基本方針①「若い世代を中心とした食育の推進」についてですが、この方針は、国の第3次基本計画との整合性をはかるとともに、若い世代は食が心身の成長や発達に与える影響が大きい時期であること、また、これから親になっていく世代や子育て世代でもありますので、より重点的に食育を推進していく必要があると考え、国と同じ基本方針を本市の方針にも新たに盛り込み設定しております。

なお、国の計画では、この若い世代というのを20歳代30歳代と設定しているのですが、本市では、子供のころからの食育推進も重要であると考え、若い世代の範囲を乳幼児期・児童生徒期・青年期を含めた0歳から39歳までを設定しております。

次に、基本方針②「健康寿命の延伸につながる食育の推進」についてですが、この方針も、国の第3次基本計画との整合性を図るとともに、先ほどご説明いたしました基本理念にも新たに追加したこと、また、関連計画である健康増進計画とも整合性をはかることから、国と同じ基本方針を本市の方針にも新たに盛り込み設定したものでございます。

次に基本方針③「ネットワークによる食育推進と食文化の継承」についてですが、この方針は、基本理念にもありますように、食に関する関係団体等がネットワークを生かして、相互に連携しながら食育を推進していくこと、また、食文化の継承が引き続き重要であると考え、第2次計画の基本方向を踏襲し、継続して設定しております。

次に、基本方針④「地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進」ですが、こちらの方針についても、今後も継続して推進していくべきであると考え、第2次計画の基本方向を踏襲し設定しております。

なお、第2次計画、一番下の段に記載しております枚方市の現行の第2次計画の基本方向の4に、「食の安全・安心の確保と安全性や栄養等の情報発信」というものがあるのですが、こちらにつきましては、第3次計画の4つの基本方針の中では明記しておりませんが、基本方針②「健康寿命の延伸につながる食育の推進」の中で継続して取り組みを進めていきたいと考えております。

案件4のうち、「基本理念（案）」と「基本方針（案）」についての説明は、以上でございます。

春木会長	<p>ありがとうございました。ただいまの案件4のうち、第3次計画の「基本理念（案）」と「基本方針（案）」についての説明がございました。</p> <p>何か、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p>
金崎委員	<p>一番下の第2次食育推進計画の基本方向④「食の安全・安心の確保と安全性や栄養等の情報発信」を第3次計画では②「健康寿命の延伸につながる食育の推進」の中に入れ込んだとおっしゃいましたが、④はとても大事なことなので、②の中に入れ込むというのはちょっと冒険じゃないかなと思います。入れ込んだその趣旨をもう少し説明していただけませんか。</p>
春木会長	<p>事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>先ほどご説明させていただきました第2次計画の基本方向④「食の安全・安心の確保と安全性や栄養等の情報発信」ですが、おっしゃっていただいているとおり、非常に大切な項目であることは事務局としても認識しております。ただ、今回、第3次計画についての基本方針を考えるに当たりまして、国の計画との整合性を図ることと、本市の第2次計画の評価と課題を踏まえまして、「若い世代を中心とした食育の推進」と「健康寿命の延伸につながる食育の推進」を明記しなければならない重要な基本方針だという認識で検討しました。</p> <p>その中で、食の安全・安心の確保の基本方向④を明記しなくなった理由につきましては、実際これらに関する取り組み、これらに関する指標や取り組みにつきましては、②「健康寿命の延伸につながる食育の推進」の中で、引き続き強化していくことができると考えたものでございます。また、食の安全性や栄養等の食に関する必要な情報の発信をすることで食の安全・安心の確保につながり、その結果、健康増進にもつながる、大きな意味で健康寿命の延伸につながっていくと考えたものでございます。</p>
春木会長	<p>市民レベルで見たときに、目標が明確にあって、それが改善されていくにつれて、健康寿命の延伸という大きな目標にたどりつくというのがクリアに見えたら良いのですが、そのあたりが市民の皆さんがそこまで読み取れるかどうかというのを、金崎委員はご心配なさっているんですね。</p>
金崎委員	<p>ちょっと無理があるのではないかなと。</p>
春木会長	<p>他の委員の皆様方、ご自身を含めまして地域の方々がそのあたりを解釈できるかどうかというところで、ご意見がありましたらお願いしたいと思います。</p>

	<p>参考資料①の国の食育推進基本計画の1ページ目を開けていただくと「理念」がありまして、そこに実践の環を広げようということで、健康寿命の延伸につながるものとして、健全な食生活という表記があると思います。枚方市としては、表記上逆転になっているのは事実ですね。大きい目的のところを先に出してきて、それに向けて食育を推進していきますとなっています。国のほうは、健全な食生活を推進していく中で健康寿命の延伸につながるだろうとなっていて、こちらの表記だと金崎委員もわかりやすいというか、市民の皆さんは誤解しないのではないかとということですね。</p> <p>要は、健全な食育ですので、健全な食生活が一番のもとになるのですが、それが積み上げられていくと、幾つかの大きな目標が達成されていくということになります。</p> <p>現在、我が国は、少子高齢社会に突入しましたので、元気で長生きというのが一番、国民一人一人もそうですし、国としてもそれが最大の懸案事項になっていますので、健康寿命の延伸につなげていくというのを枚方市は大きな目標にしたとご理解いただければ、やっていくことは同じですし、求めることも同じなのですが、どちらを念頭に持ってくるか、大きく意識するかだと思います。</p> <p>市民の方も、元気で長生きしたいという一人一人の願いは当然であって、健康寿命という言葉も、もう行き渡っていますので、そのあたりが目標としては非常に大きな目標であるので、金崎委員のご心配もよく分かりますね。</p> <p>食の安全・安心を健康寿命の延伸につながる食育の推進の中を含めたことについて、各委員の皆さんのお考えを少しづつ何か一言ずつご発言をいただけるとありがたいのですが。</p> <p>谷委員、いかがですか。</p> <p>谷委員</p> <p>細かく言ったら別々になると思うのですが、この中に包括されているわけですから、私は健康寿命の延伸に含めていいと思いますよ。</p> <p>西谷委員</p> <p>私もこのままで大丈夫かなと。</p> <p>東尾委員</p> <p>私もこの「栄養等の情報発信」は2番のこの健康寿命の中に入ると思っています。ですが安全性という意味では、ちょっと私も2番で良いのか分かりにくいのですが、ただ、大きく見ると2番でいけるかなと思います。</p> <p>松本委員</p> <p>私は、食の安全・安心の確保をするということは、広い目で見ると健康寿命の延伸につながるということで、これを包括されているというふうに考えます。</p> <p>有川委員</p> <p>私も2番の中で包括されていると思いますが、例えば、公衆衛生とか</p>
--	---



井上委員	<p>その辺のことも含めてだと思えるのですけれども、それも健康寿命の延伸につながると思うので、私もこれでいいと思います。</p> <p>安全・安心という言葉ですが、安全というのは科学的に非常に説明しやすいんですが、安心というのは個々によって違うし、すごく心情的なものとか、その人の立場によって、すごく左右されるので、非常に扱いづらいと言ったら語弊がありますけれども、安心という言葉に対して、すごく難しさを感じます。「安全ですよ」というのは比較的言いやすい。ただ、「100%安全ですよ」というのは非常に言いにくいのですけれども。「安心を渡す」というのは、非常に難しいところでもありますので、健康寿命の延伸と言う形でいったほうが進めやすいというか、事業としてはやりやすいのかなと僕は考えます。</p>
宇佐見委員	<p>もちろん安全であることは大事に扱われなければいけないとは思いますが、この2番の「健康寿命の延伸」が大きなくくりで、4番の「食の安全・安心」というのは包括されるのかなと思っております。金崎委員の気持ちもよく分かりますが、文字に表すようになってしまうのかなと思いました。</p>
甲斐委員	<p>私も国の施策の課題に当たっている健康寿命の延伸が大きな課題としてあって、その中にこういう食の安全・安心といった少し細かい部分が入っていればいいのではないのかなと思います。</p>
春木会長	<p>基本方針として立ち上げていく中では、このレベルでも十分よいだろうというのが多くの委員の方のご意見だったと思いますが、金崎委員、いかがでしょうか。</p>
金崎委員	<p>大きい視点から見れば、その中に入り込めるものと思わざるを得ないと解釈しました。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。市民向けには、余り健康寿命をふりかざすのではなくて、1人ひとりの身近な課題に直結していく食の安全・安心をうたいつつ、食育推進を進めていくということをしていただければ、金崎委員のご心配も少しは薄れるかと思しますので、そのようお願いしたいと思います。</p> <p>他にご意見等ございませんか。</p> <p>第3次計画になるわけですが、ここで仕上げるというわけでは決してなくて、これからずっと何らかの形で進めていく施策になっていくのだろうと思います。1次計画、2次計画ときましたので、3次計画あたりで、何らかの達成できる目標みたいなものが、クリアに確認できるものが少なくとも1つ2つぐらいあれば、次の励みになりますし、そのこと</p>

	<p>が市民の健康生活に直結していくということになります。</p> <p>健康寿命の延伸というものが重点課題にあがってきたのは、国だけではなくて、都道府県・市町村もそうですし、我々一人ひとりもすごく重要性を実感しているものだからだと思います。高齢期になると十分役割を果たすことができなくなってきて、若い世代に支えてもらうことになるのですが、今は、様々な社会資源が豊富になってきていますし、色々な仕組みも利便性が高くなってきて、合理的に色々なことが進んできていますので、そのあたりは心配しなくていいと思います。ですから、やはりこうなってくると、一人ひとりの国民・市民が、自分の健康は自分できちんと守っていくというのを柱にもっていかないと、市町村だって一人ひとりの市民に手をかけていくことはできないので、そのあたり市民一人ひとりが自覚して、自身の生活、食生活、健康生活をどう管理していくかという意識が高まっていくような働きかけが重要になってくるかと思っています。</p> <p>第3次計画というのは、国としても、それから我々末端の食育に取り組んでいる者たちも、そろそろ成果を出さないといけないという非常に荷が重たい段階になってきています。変に緊張する必要もないのですが、市民の人たちが「ああ、これでよくなってきたわね。私もこうなってきたけど、みんなもそうだったよね。そうになっているよね」みたいな、何かクリアなものが見えてくると、励みになってより健康に健康にという市民一人ひとりが取り組んでいけるのだらうと思うので、そのあたりの工夫が第3次計画は要るのだらうと思っています。</p> <p>良いご意見をいただきました。ありがとうございます。</p>
金崎委員	<p>もう少しよろしいですか。</p> <p>基本方針③最後の「食文化の継承」の食文化という言葉が、ここで初めて出てきた言葉だと思うのですが、それを受けて、枚方市でもこの基本方針の中に入ってきて、何かこれを入れることによって変化することはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>「食文化の継承」についてですが、枚方市の2次計画のときにも②「ネットワークによる食育推進と食文化の継承」ということで入れてはいます。今回継続して入れるに至った経緯につきましては、まず、主食・主菜・副菜、栄養バランスが整った食生活をしていただくことが望ましいということで取り組みを進めていく中で、日本型食生活、ご飯を中心におかずをそろえて食事をするという日本型食生活の良さというものが見直されてきていると、背景として感じております。ちょうど2年ぐらい前に「和食」が無形文化遺産に指定されたこともございまして、食文化の継承は、継続して進めていかないといけないと考えております。</p> <p>実はもう一つ、今年、市民意識調査を実施させていただいた中で、アンケートの中の項目に枚方市の伝統食、ごんぼ汁などがありますが、「枚</p>

	<p>方市の伝統食を知っていますか」というアンケートの設問があったのですが、意外と皆さん知らない方が非常に多く、最後ご意見をいただくところでも、「初めて枚方市の伝統食を知った」とか「もっと広めた方がいいと思う」というご意見を非常にたくさんいただきましたので、引き続き、枚方市の伝統食についても継続して啓発をしていかないといけないというところで、「食文化の継承」を2次計画から引き続き設定する必要があると考えたものでございます。</p>
金崎委員	<p>とても良いことだと思います。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。「食文化の継承」はキャッチコピーのようになったときもあります。だから、それは短くて何が言いたいのがわかり、そこからディテールに落とししていきますから、当局としてはこのあたりがきちんと進んでいくための作業をもちろんしていただかないといけないし、ここにお集まりの委員を初め、地域で色々な活動をされている方たちが、そこを誤解なくご理解いただいて取り組んでいっていただけるような手だてを考えていただくということが必要だと思います。それを再確認する場になりましたので、よかったです。</p> <p>では、案件4につきましては、これでよろしいですか。</p>
谷委員	<p>資料4の18ページの「小中学校での地域人材を活用した体験学習の現状」とありますが、「地域人材を活用した食育活動」でいう、「地域」というのはどういう意味でしょうか。</p>
事務局	<p>この地域人材とは、非常に広い範囲を示しておりまして、もちろん地域で活動されているボランティアの方もそうですし、地域で農業をされている方々も含んでおります。あと、枚方市内に限らず、市内外にあります食品の関連事業者や企業などについても含めております。</p>
春木会長	<p>そうすると、さっき報告の中で、料理教室を受けていた方たちが自立されたために個数が減ったという説明がありましたが、その方たちが自立して一人一人講座をされるとすれば、それが地域人材となりますのでそういうのも把握できたら良いなと思います。そのあたりをちょっと考えていただくといいかなと思います。</p> <p>では、案件4のうち、「基本理念」と「基本方針」につきましてはよろしいでしょうか。</p> <p>では、引き続き、案件4の「目標」について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、続きまして資料7をご覧ください。</p> <p>こちらは、第3次計画の目標項目の案の一覧となっております。一番左側に現行の2次計画の目標、中央に第3次計画の目標案、右側に備考</p>

を示したものでございます。

前回の審議会で目標案を一度お示しさせていただいておりますが、その後、委員の皆様からご意見をいただき検討を重ねてまいりましたので、前回の審議会から変更になった目標、主に黄色で赤字にしてあるところになります。その部分を中心にご説明させていただきます。

まず、③「親子で取り組める食育活動を行っている保育所（園）、幼稚園の増加」についてですが、これは親子で取り組める食育活動というのに、ある程度各園のほうで限界がありまして、現在実施できていない園は環境的に実施困難であることが予想されますので、今後の伸びしろが期待できない状況にあったことから変更することを検討してきたものでございます。

変更案の一つ目が、「調理・菜園活動など体験型食育活動を行っている保育所（園）・幼稚園・認定こども園の増加」としておりまして、これは、保育所や幼稚園において実施する体験型の食育活動を通じて、子どもたちが友達と共感しながら学ぶことで記憶や印象に残ったり自発的な感情がわいてくるなど、子どもたちにより効果的な食育を行えるのではないかと考えたことから設定するものでございます。

また、幼児期の食育推進には、子どもだけでなく保護者に対してのアプローチも重要で不可欠であることから、その下の段の「保護者に対して食育の取り組みを行っている保育所（園）・幼稚園・認定こども園の増加」というのも合わせて設定するものでございます。

なお、認定こども園につきましては、第2次計画の策定後に設置されたことから、目標の中に言葉として明記されていませんでしたが、これまでも設置されてからは対象に含めておりましたので、3次計画では目標に「認定こども園」という表現も明記することといたします。

次に、④-1「欠食のある幼児の減少」についてですが、現状として食事回数が1日のうち3回に満たない幼児というのは、朝昼兼用として朝食を欠食しているケースが多いということは予想されましたので、前回は「朝食を欠食している幼児の減少」というのを案としておりました。ただ、現時点で朝食を欠食している幼児を明確に把握することが難しいことと、また、欠食しているのが朝食に限らないということもございまずので、現行の目標と同様、「欠食のある幼児の減少」をそのまま継続したいと考えております。

次に、黄色にはしていないのですが、⑤「1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加」というところをご覧ください。

こちらは2次計画から継続した目標としていますが、3次計画ではこの目標をさらにステップアップさせたいと考えておりまして、これまで2次計画のときは「1日のうち1食でも主食・主菜・副菜をそろえた人の増加」という目標にしていたのですが、3次計画では、「1日のうち2食以上主食・主菜・副菜をそろえた人の増加」に変更をしております。この目標は、⑤では生活習慣病予防の観点から、また、⑩では日本型食

生活の継承の観点から同じ目標を再掲しております。

次に、⑥「歯科検診を受けている人の増加」についてですが、2次計画では歯育の推進というのを重点目標の一つとしておりましたが、平成28年3月に「枚方市歯科口腔保健計画」が策定され、歯科検診の受診者数については、歯科口腔保健計画の中で進捗管理できることから、今回変更することを検討しております。

前回の審議会では、目標の案を「何でもよくかんで食べることのできる市民の増加」としておりました、噛める機能について聞くような目標としておりましたが、「噛める機能というのは、高齢者を連想してしましまして年齢幅が限られるのではないか」とのご意見をいただいたことや、健康寿命の延伸の観点から、噛み方や食べる早さに着目することも重要であると考え、3次計画では「ゆっくりよくかんで食べる人の増加」に変更するものです。この目標は、国の第3次基本計画でも新たに設定されているものと同様の目標となっております。

次に、⑧「地域人材を活用した食育活動を行っている小中学校の増加」についてですが、現在、地域人材を活用した食育活動を行っていない学校は、地域性や環境から実施困難であることが予想されまして、数値の伸びしろが期待できないことから変更を検討しておりましたが、食育推進の基本理念にもありますように、地域や生産者等を含む食育の関係者や団体が、相互に連携・協力し、ネットワークを築きながら食育を推進していくということが重要であると考えまして、現行の目標をそのまま継続することとしたいと考えております。

なお、先ほど谷委員のご質問にもあったように、地域人材の範囲というものを、農家だけでなく、食品関連事業者など、枚方市以外の企業もこれまでも含んでおりましたので、表現を地域人材のあとに「等」をつけまして、「地域人材等」に改めたいと考えております。

続きまして、⑨「ボランティアが行う食に関する教室への参加者の増加」についてですが、これまでは食に関するすそ野を広げる観点から、教室の参加者数の増加を目標としておりましたが、食育を推進していくに当たり、ボランティアの果たす役割というのが大変大きく、不可欠であることから、「食育推進にかかわるボランティアの養成人数の増加」に変更するものでございます。なお、国の第3次基本計画では、2次計画から引き続き、食育の推進にかかわるボランティアの数を増やすことを継続して目標設定されております。

続きまして、新規設定の目標の一つ目、「1日のうちに2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加（20歳代・30歳代）」についてですが、これは3次計画の基本方針である「若い世代を中心とした食育の推進」を踏まえて、2次計画から継続して設定している⑤と⑩の「1日のうちに2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加」について、20歳代から30歳代の若い世代に特化した目標として新たに設定したものでございます。

	<p>次に、新規設定の目標の二つ目、その下の段の「1日のうちに2回以上、家族・友人・職場・地域等・誰かと一緒に食べる人の増加」についてですが、この目標は、国の計画との整合性をはかること、また、家族形態の変化や多様化するライフスタイルに伴って「孤食」というのが課題になっていることから、3次計画にて新たに設定するものでございますが、前回の審議会では「共食の回数」というのを目標にしておりました。ただ、市民意識調査の結果、1日のうちで誰かと一緒に食事をしている回数が2.1回という結果が出まして、高い結果であったことから、その人が1日のうちで誰かと一緒に食べる回数をこれ以上増やすことよりも、1日のうち2回以上誰かと一緒に食べる人の割合というのを増やすほうが目標として適していると考え、変更するものでございます。</p> <p>順番が前後してしまったのですが、その上⑩「学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加」のところですが、これまでも2次計画が策定されたときは中学校給食が始まっておりませんが、小学校給食というのを対象にしておりましたが、今回、中学校給食が枚方市のほうでも導入されておりますが、目標としましては、小学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加ということで、明確にするために「小学校」という表現に改めております。</p> <p>以上が、前回の審議会から変更となった目標でございます。</p> <p>次に、この2枚目の資料をご覧ください。</p> <p>これは、先ほどご説明させていただきました3次計画の目標につきまして、基本方針ごとにまとめたものでございます。その現状値を右の欄に記載しておりますので、またご確認いただけたらと思います。</p> <p>第3次計画の目標の案についての説明は、以上でございます。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。ただいま事務局から、案件4のうち、第3次計画の目標（案）についての説明をいただきました。何かご意見、ご質問等、委員の皆様からありましたらお願いいたします。</p>
井上委員	<p>噛める機能のところ、これはこれでいいと思うのですが、皆さん、「噛める」というのがイメージとして分からないと思うので、唾液も出て、麻痺など無い場合、何本歯があつたら噛めるかという話を知識としてお伝えだけさせてもらおうと思います。</p> <p>一応、大体18本以上あつたら何でも食べるというふうに言われているので、「8020」もそこから来ているところもあるのですが、それが17本を切ったあたりで食べにくくなるものが、フランスパンとか酢ダコとかするめイカとかたくあんが食べにくくなります。</p> <p>さらに減って、5本以下になると食べにくくなるものが、煎餅、かまぼこ、きんぴらごぼう、れんこん、おこわあたりが噛めなくなります。</p> <p>5本以下になっても食べられるのが、バナナ、うどん、なすの煮びたしあたりになりますので、大体その辺、皆さんちょっとイメージとして</p>

<p>春木会長</p>	<p>もっておいていただければ良いかなと思います。</p> <p>また、入れ歯を入れていただいたら、またそれはそれでちゃんと機能は回復するのですが、一応、知識としてせっかくなのでお伝えだけしておきます。</p>
<p>井上委員</p>	<p>ありがとうございます。「8020」で20本と言っていますが、18本以上でいいのですね。</p> <p>データとしてよく使われるのは、新庄先生が出したデータが使われていまして、そこでは大体18本とされています。大概の本はそれを引用されていて、大概の歯医者はそれをデータとして使っていると思います。ただ、基本は、やはり20本あったほうが良いと思います。それも個人差もありますし、上と下の歯がどういう形で残っていて、上と下のどの歯が当たっているかというのもあるのでざっくりした事しか言えないのですが、大体そういうイメージで、歯の本数によってだんだん噛めるものが減っていくということだけイメージしていただければ良いと思います。</p>
<p>春木会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、他にご意見等ございませんか。このあたりが実際に進めていく食育の方針となっていきますので、気になられることとか、また、こういうことをしたいと思っているが、この方針の中ではできそうにないとかいうのがあれば、ぜひ今お話いただければ、また事務局の方で考えていただけると思うのですが、ないでしょうか。</p> <p>私から少しいいでしょうか。⑥「ゆっくりよく噛んで食べる人の増加」が挙げられていますが、「ゆっくりよく噛んで食べる」というのは、よく噛むとゆっくりになるので、意味としては重なるかなと思いました。むしろ、私はよく噛むためには、噛むことによっておいしさが口腔内に広がるので、私なんかは、時間がなくてもしっかり噛まないもったいないと思うわけなんですけど、なので、味わってよく噛む、よく噛んで味わうという、何となく、その「ゆっくり噛んで」といったら時間がかかるような気がして、現代人にとっては、「こんなに時間をかけられない」と思ってしまう方もたくさんいらっしゃるので、「よく噛んで味わって食べる」というとプラス面になりますので、今思いついたのですが、ちょっとまた、検討してみてもどうかかなと思いました。</p> <p>それから、「主食・主菜・副菜をそろえた」というのが、国も盛んに使われているのですが、枚方市もたくさん出てきますね。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。3つ出てきます。まずは⑤と⑩、これは全世帯を対象に、生活習慣病予防の観点と日本型食生活の観点となります。また、今回新たに追加したところで、20歳代・30歳代に限定して数値の目標管理をし</p>

	ていくというもので、1つ追加しております。
春木会長	この黄色の網掛けが、しっかりやっていきますよという重点的な目標になるのでしょうか。
事務局	黄色の網掛けは、以前の審議会から変更になったところを色づけさせていただいております。この目標の中でさらに重点的に取り組んでいくというのは、また次の審議会のお示しさせていただきたいと考えております。本日は、この目標の項目についてご意見をいただいて、固めていけたらなというところでございます。
春木会長	分かりました。 他に、何かご質問等ございませんか。
井上委員	会長が美味しいか、美味しくないかという話をされたので、また参考にお伝えだけさせていただきます。一応20本以上歯が残って食事をした人は「とても美味しい」と感じる人が多く、19本位になったら「美味しい」となって、16本位になったら「普通」、11本になると「美味しくない」という、そういうデータが出ています。 これは、2007年頃に「8020」の財団の研究報告で出しているデータでして、参考にお伝えだけさせていただきます。
春木会長	ありがとうございます。皆さん、しっかり噛んで食べると、より美味しくなりますので、ぜひ実践していきましょう。 他にありませんか。第3次計画において一番大事なところになりますので「いや、ここはどうなの」とか「これを外してでもこれを入れてほしい」とか、委員の皆さんございませんか。
金崎委員	新規のところ「1日のうち2回以上、家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる人の増加」というのが加わったことは、すごくこれは良かったなと思います。これが、心の栄養になる部分だと思います。 ただ、目標数値というのはどのようにデータをとっていくのでしょうか。最近、「孤食」という言葉がだんだんとなくなってきて、でも現状はどうなのかというのが把握できていないですよね。このデータのとり方は、どのようにされるのでしょうか。
事務局	これは、市民意識調査でこの項目を聞かせていただいて、その結果を集計したものになります。設問としましては、「あなたは家族や友人などと、朝・昼・夕食を誰かと一緒に食べていますか」ということで、朝食、昼食、夕食それぞれについて、食べている、食べていないというのを全



	<p>部聞かせてもらうアンケート調査を、今回から実施しております。</p> <p>それで出た現状値が、次の2枚目の資料にお示ししているのですが、基本方針「ネットワークによる食育推進と食文化の継承」の1つ目の「1日のうち2回以上、家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる人の増加」、現状値が54.6%となっています。現時点で半数より少し超えるぐらいの方々が、1日2回は誰かと一緒に食事をしているということになっております。</p> <p>目標値をどれぐらいに設定するかは、現在、事務局の方で検討しているところですので、次の審議会のときに目標値をお示しさせていただきたいと考えております。</p> <p>ありがとうございます。他にご意見等ございませんか。</p> <p>この主食・主菜・副菜をそろえることなんですが、実はこれ、一般の方にはとても難しく、主食はご飯やパンと分かりやすいのですが、主菜・副菜が何なのかが分からない方も多くいらっしゃいます。また、若い世代においては1つの鍋で作ったり、1つのフライパンで作ったりして、1品を食べる方が結構いらっしゃいます。料理をする時間がなかったり、スキルがなかったりすることもあるのですが、そうではなく、ちゃんとメインディッシュと野菜料理がないといけないのですが、それはそれで「こんなのできない」となってしまうわけです。ですので、若い世代に向けては、ワンディッシュメニューでもこんなふうの中身を工夫すると栄養バランスの整ったものができるとか、そういう啓発も入れてあげないといけないと思います。若い世代が一番、主食・主菜・副菜をそろえて食べることができなくなってきていますので、そこをカバーしていただくと、該当する人が増えてくるのではないかなと思います。</p> <p>他にございませんか。</p> <p>案件としては、これで一通り終わったわけですが、案件の1・2・3も含めまして、全体的にご意見等はございませんか。</p> <p>市民の人たちが「これならできる」と思えるような指標が1番良いと思うのですが、そういう視点で見ていただいて、ご意見等があれば、一言ずつお願いできますか。「これはとてもいいと思う」でも良いですし、「このところをこうすると、多くの人たちがやってみようと思うのではないか」とか、「今出ているこの文言だと非常に分かりにくい」とか「堅苦しくて、市民の皆さんが理解できないのではないか」というご指摘ももちろん結構ですので、何か1つずつぐらい見つけていただいてご意見をいただけますでしょうか。</p> <p>次回の審議会で、どれを重点的に取り組む目標にしたら良いかを各委員さんに考えてきてもらっても良いですか。</p>
春木会長	<p>それでも結構ですし、一応、次の審議会で事務局の方で重点目標として取り組むところをお示しをさせていただきたいと考えておりますの</p>
事務局	

春木会長	<p>で、また、それに対してもご意見などをいただけたらと思っております。</p> <p>分かりました。では、本日の案件1から案件4までで何か1つずつご意見なり、ご提案なりあれば聞かせていただいでよろしいでしょうか。</p> <p>第1次計画、第2次計画ときて第3次計画になるので、2つ3つは達成できると良いなどこの市町村も考えておられるのではないかと思います。その視点で、市民の立場としては「これならできそうだ」とか「これは難しそうだよ」とか、今、意見を出していただくと事務局の方で検討して下さると思いますのでお願いします。</p> <p>谷委員からお願いできますか。</p>
谷委員	<p>細かいことを言い出したら切りがないのですが、全体的にはこのままで私は良いと思います。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。</p>
西谷委員	<p>私はPTA協議会から来ていまして、中学生の子どもが2人いるのですが、こういう審議会に初めて出させていただいています。こういう計画を作っていることも全然知らなかったの、「行政はこんなことを考えていらっしゃるのだな」と初めて知りました。親の立場としてこんなことを色々考えてくださっていることを知らなかったの、自分の子どもが朝ご飯を食べずに学校へ行くという人も多くいらっしゃると思います。それを減少させるという運動をしていることも、多分知らない方がたくさんいると思うので、市民全般にこういう計画を作って、こんな取り組みをやっていることを広められたら良いなと思います。それはそれでまた難しいことだとは思いますが。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。市民全般に行き渡るように、普及をしっかりとお願いしたいと思います。</p> <p>副会長は小学校の校長先生でいらっしゃいますが、小学校、食育について随分とされていることも多くあると思いますが、いかがですか。</p>
中村委員	<p>はい。食育活動は各学校においても取り組んではいますが、ただ、目標の「地域人材を活用した食育活動を行っている小中学校の増加」のところで、食育活動を行っていない学校は地域性や環境が理由でできておらず、数値の伸び悩みが課題と書かれていますが、これは学校にも責任があると感じています。</p> <p>その1つは、例えば、この地域人材、今度は「等」というのを入れるとおっしゃっていただいたのですが、地域人材と聞いたときに、「うちの地域では米づくりをしているから、そこが使えるわ」というようにすぐ結びつくのですが、それがなければ「ああ、やはり無理だな」となり、</p>

	<p>単純に捉えて「ああ、無理だな」となってしまっているところが多々あるのではないかなと思います。</p> <p>実際問題、企業等の活用というところからいくと、企業の方に来ていただいて、それこその話の中で出ていました食品ロスの問題を含めた形で、子供たちの調理実習を通して「エコ布巾」を学ぶとか、そういう時にどういう視点で取り組めば良いかということ学ぶ機会になっています。最近では、若い先生が増えていて、自分で調理をしたことがないような先生が家庭科を教えるということにもなっているので、そういうところに企業から来ていただいた方にお手伝いいただくことによって、さらに子供たちにとっても学ぶ機会になっていると思います。また、「こういうこともできますよ」、「他の学校ではこういうこともやっていますよ」というような、まず知らないことを知ってもらって、自分の学校ではどんなことができるかというのを、地域人材の活用というだけではなくて、広げていくこともできるのではないかなと思いました。</p> <p>それともう1つは、このアンケート結果を見ると、枚方市の伝統食を知らない人がかなり多くいらっしゃるみたいですが、給食の中には必ず、毎年、秋頃に枚方市の伝統食がメニューとして出ています。それを、単純に考えれば、1年生から6年生まで食べたら6回そういうことを知る機会にはなっているはずにも関わらず、それを知らずに中学生、高校生、大人になっている人が多いのではないかなと思います。</p> <p>ですから、その給食で伝統食が出たときに、例えば栄養教諭の先生や担任の先生も「今日のメニューは、枚方市の伝統食だよ」と教えること、伝えていくことが大切になると思います。あと、伝統食は、社会科でも学びますので、食べるだけでなく、やはり、学校の中では色々な形で学ぶチャンスがあるので、そういうチャンスをどの学校も意識していきましょうということ啓発していただいても、少なくとも小学生には啓発できますし、また、小学生に啓発することは保護者を巻き込むこともできるので、そういうところでは、学校としてももちろん頑張らないといけないなと思います。</p> <p>谷委員  そういうことを先生が子ども達に教えないといけないと思います。例えば、献立表で「火曜日のタマネギは枚方産ですよ」とか、そういう書き方はしていないのですか。また、先生もそれを子供たちに教えないのですか。</p> <p>中村委員  うちの学校では、しています。</p> <p>谷委員  中村先生の学校はしているかもしれないけれど、45小学校で、そういったことをなぜ教えないのですか。</p> <p>中村委員  45校でその足並みが揃えばいいのですが、ただ、全くやっていない</p>
--	---

	<p>ことはないです。地産ということに関しては献立表にももちろん書いていますし、それから、各教室に配布している毎日の給食カレンダーを必ず学校全体としては放送委員の生徒が全校に放送もするし、給食を食べるときには、「今日のメニューは、こんなメニューです。これは枚方産のタマネギが使われています」とか「今日のお米は枚方産のレンゲ米です」とか、そういうことは毎日言っているのですが、例えば、伝統食であれば、ほぼほぼみんな知らないの、「これはこういう云われがあって作っているものですよ」という話をプラスしてつけ加えとか、それだけではなくて、教科を通して学ぶときもあるので、「給食で食べたよね」という話もつけ加えとか。だから、今やっていることにプラスアルファをできないかなというところを思っています。</p>
<p>谷委員</p>	<p>そんな上辺だけの話ではなく、教育委員会や学校の先生、健康総務課が一体となって子ども達に教えることによって、子どもは「枚方の米やな」とか「枚方のピーマンやな」ということを覚えていくと思います。先生が、もう少ししっかりと子供たちに教えてあげて欲しいなと思います。先ほど、皆さんでその辺の啓発をやりたいという話をおっしゃっていましたが、一般市民が教えるわけではないですから。教育委員会、学校の先生が子ども達に教えてあげれば、もう少し数値は上がるわけであって、上がらない理由はそこが原因だと思います。</p>
<p>中村委員</p>	<p>そうですね。</p>
<p>春木会長</p>	<p>そのあたりで、教育指導課とか学校給食課で何か取り組みをされているかどうかを教えてください。「今日の食材の中には何々がある」とか、そういう情報が学校に届くような取り組みはされていますか。</p>
<p>前村学校給食課長</p>	<p>学校での取り組みということでは、中村先生が今説明していただいたとおりですが、あとプラスしてということであれば、先ほどの説明でもありました「給食カレンダー」ですが、これは、その日の献立をイラストで書いてあるものです。それを見て、子ども達が「今日の献立は何なんだな」と実感したり、あと、給食の配膳室のところに、1人前どれくらいの量を盛りつけるのかというサンプルを置くことでPRをしています。</p> <p>あと、校長先生や栄養教諭の先生が子どもの配膳時に給食室の前に立って、「今日の献立は何ですよ」という案内などをさせていただいています。</p> <p>このような取り組みを通じて子ども達への働きかけが広まっていったら良いなど、思っているところです。</p>
<p>春木会長</p>	<p>生徒に向けては、そういう色々な取り組みがされているわけですが、逆に先生方が知らないという、今は若い世代の先生方がかなり多いので、</p>

前村学校給食課長	<p>先生方に対して給食指導みたいな形で何かできれば良いと思うのですが、いかがですか。</p> <p>先生方への働きかけとしては、学校給食会という任意団体の組織がありまして、各小学校の給食担当の先生に集まっていただいて、給食指導のあり方などを研究していただいている場があります。その場で本日いただきました意見もお伝えしていきたいと思います。</p>
春木会長	<p>そこに集まる給食担当の先生はよく知っているけれど、他の先生方に広がらないという懸念がありますよね。私も食育活動を小学校とか中学校の食育を一緒にさせてもらっているので、随分それを実感しています。1人ひとりの先生にその情報が行き渡って、そしてそれが子ども達に伝えられていくということが望ましいのですが、若年化された先生方が多くなってから、そこが弱いと強く感じますので、そこが改善されるよう、よろしくをお願いします。</p> <p>では、続いて東尾委員をお願いします。</p>
東尾委員	<p>食生活改善協議会から来ている東尾です。</p> <p>今年度からボランティアの人数が目標として挙げられていますが、今までは、そのボランティアが行う教室の参加者数が入ってしまして、現状値がかなり減ったのは、男性のグループで長い間、10年近く基本的なことからされていたグループが独立したということで、実施する教室の数自体がすごく減ったということになります。</p> <p>今度、新しくこのボランティアの養成人数の増加として、現状値はどのように考えているのかなと思ったことと、食生活改善協議会のメンバーは、退職されてから入られる方が多いので、かなり高齢になってしまして、80歳、90歳の人で、50年近くやっている方が多くいらっしゃって、もう活動されていない方もいらっしゃいますし、一方で若い人が全然入ってこないで、ここの目標、ボランティアの養成人数、私たちもこのボランティア養成講座を修了しているわけですが、そういう養成講座修了者が高齢化になってきて、新しく若い人が入ってこないという現状の中で、どのような人数設定をされるのかなと疑問に思いました。</p>
春木会長	<p>このあたり、事務局は何かお考えですか。</p>
事務局	<p>第2次計画では、ボランティアが行う食に関する教室への参加者の増加ということで指標に挙げさせていただいていましたが、ここでいうボランティアが行う教室とは、枚方市の健康づくりボランティア講座というものを受講していただいた食生活改善協議会の方が行う教室と、あと健康リーダーが行う食に関する教室とを指しております。今、東尾委員がおっしゃったように、ボランティアさんの高齢化であったり、あと、</p>

	<p>ボランティアということもあってなかなか教室数をどんどん増やしていくことが難しいこともありまして、今後の食育の広がりということを考えたときに、この既存の団体だけに頼るのではなくて、今ある別の目的をもったボランティア団体だったり、別の活動をしておられる方たちの中でも、その活動の中の一つとして食育に関する活動をされていたりとか、みんなで一緒に食事をするということも食育活動の一つになりますので、こちらの方からそのボランティア団体に啓発を行っていくことによって、もっと広がりが出てくるのではないかなと考えております。</p> <p>その一つとして、今こちらの方で考えているのが、第3次計画では食育推進にかかわるボランティアの養成人数の増加ということで、備考欄に健康づくりボランティア講座とそれに加えて、新しくいきいきサポーター養成講座の修了者数を数値化するというので記載をしています。いきいきサポーター養成講座とは、校区福祉委員の方に対して、認知症を含む介護予防の活動を校区の方で広げていただくことを目的にボランティアさんを養成しているものになります。</p> <p>その中の一つとして、食に関する講座というところもしておりますので、それも食育推進に関わるボランティアさんを養成することにつながるのではないかと考えました。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>これに参加される方自身が、結構高齢なのですよ。</p>
事務局	健康づくりボランティア講座に関してでしょうか。
春木会長	はい。
事務局	申し込まれる方は、やはり退職後の方が多いの現状です。年間では、50歳代の方、40歳代の方も来てくださるのですが、ほとんどが60歳代、65歳以上の方が多いというのが現状です。
春木会長	男性と女性、どちらが多いのですか。
事務局	女性のほうが多いです。
東尾委員	そのボランティア養成講座を1年間受けて修了したら、私たちの団体に入ってもらって活動をしてもらっているのですが、養成講座の1年間は仕事を兼ねながらでも勉強される方もいらっしゃるのかもしれませんが、こちらへ入ってこられる方は退職された方、高齢の方が多く、男性の人は5名弱ぐらい入ってきます。男性の方でも料理をされるし、色々されています。先ほど数値が減ったという話がありましたが、あれは、男性の人ばかりの料理教室だから、本当の基礎からやって独立できる状

春木会長	<p>態までになって、今は自分たちでやっています。</p> <p>なるほど。何らかの形で維持はできているけれど、若い人がおらず高齢化になっていくことがとても心配なのですね。</p>
東尾委員	<p>私たちより若い人、50歳代の方がほとんどいらっしゃらないです。もう60歳代ばかりになっています。</p>
春木会長	<p>そういったところを、保健センターの方で講座の呼びかけをしていただくとか、何かそういう認識支援をしていただくと、ある程度増えてくるのではないかと思います。こういうボランティアがあってこういう活動をしていることを知らない人もいらっしゃるの、そこは、みんなで支えていかないといけないと思います。本当に食生活改善協議会さんの活動は、本当にありがたいと思っていますので、ぜひ頑張って続けていただきたいと思います。よろしくをお願いします。</p> <p>では、次に松本委員をお願いします。</p>
松本委員	<p>私は、平成29年、今年度からこちらのほうに参加させていただいているので、詳しいことを私の方から申し上げるほど私は勉強ができていないのですが、先ほど西谷委員がおっしゃったとおり、私も「こんなことをやっていたのだな」とお恥ずかしい話ですが、知らなかったこと、「こんなことを支えていたのだな」というところがたくさんあって。</p> <p>ただ、私が知らないということは、結局は市民の方も知らないのだらうなというのが私の率直な気持ちです。3,000人にアンケートをして1,400人の回答があった。その1,400人は、じゃあ市民の何%なのか。そうやってきたときに、それで「70%を達成しました」と言っているのかなという部分がちょっと感じられたので、もっともっと周知の仕方というのを考えなければいけないのではないのかなというのが、これ一つ一つのお話じゃなくて全体的にそういうふうに感じました。</p> <p>私からは以上です。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。次に金崎委員をお願いします。</p>
金崎委員	<p>私は市民団体からの代表なのですが、このような食育に関わって随分長くなります。でも1番ネックは、どう広報するか。知らせることができるのは関心のある人でして、関心のない人にはどう知らせていくかということが一番難しい問題だと思います。データを取るに当たっても、どういう数値が出てくるのかなと私は疑問に思っているのですが、どう知らせていくかというのが、課題だと思います。</p>
春木会長	<p>地域の方たちで伝え合っていただくのが一番強力に届くのですよね。</p>

金崎委員	<p>はい。そうだと思います。ただ、料理教室をしようとしても、人が集まらないという状況で、解散したというようなこともあるので、本当に、多くの人にどう知らせていくかというのを考えていかないといけないなと思います。</p>
春木会長	<p>日本全国それで悩んでおりますね。 では、甲斐委員お願いします。</p>
甲斐委員	<p>新規で2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加、20歳代、30歳代とありますが、私も20歳代の娘がいるのですが、ひとり暮らしをしまして、枚方市民ではないのですが、やはり、ご飯を食べていないのですよね。冷蔵庫をたまに見に行くと、本当に焼き肉のたれと何かしなくて「これ、何食べているの」という感じですよ。</p> <p>枚方の広報にはクッキングのレシピを載せてくれているので、30歳代の方とかは広報を見られると思うので、こういうのがどんどん載っていると、「ちょっとこんな作ってみようかな」という意識も高まりますし、カラーでとても見やすいなと思います。</p> <p>20歳代の人たちにどう広めていくのかというのが多分課題なのかなと思いますが、何かもっと若い人が、こんなふうに簡単に、何か取り組めるとか、さっき春木先生がおっしゃったように、主食・主菜・副菜と言ったら堅いイメージでハードルが高くなってしまっているのですが、ワンプレートでもここに全部野菜も色々なものが含まれていて栄養も摂れているよとか、若い人に向けた啓発として大学に対して働きかけるとか、何かあればもっと若い人たちも、「調理して食べることは大事だな」というのが分かってくれるのかなと思います。その人たちがまた親になった時にも「子供たちにしっかりこうやって作っていかないといけないな」と意識されるのかなと思いました。</p>
春木委員	<p>ありがとうございます。 では、宇佐見委員お願いします。</p>
宇佐見委員	<p>羽衣国際大学の宇佐見です。アンケートをあまりじっくり読む暇もなかったのですが、自由記述にすごくしっかり書いていらっしゃる方もたくさんいらっしゃって、それを読んでいると、アンケートから気づかされるのがたくさんあったり、学ぶことがたくさんあったり、アンケートをすること自体が学習する機会になっているのだなと思いました。</p> <p>ただ、こういうふうにしっかり書いてくれている人は食に関心をもっていると思うので、一部の意見ではあるかとは思いますが、やはり、軒並み、「料理教室をもっと開催してほしい」とか、「食品ロスのことなど学習会をたくさん開いてほしい」とか、そういうふうな要望がたくさん</p>



	<p>ん書かれています。</p> <p>今回の資料の中で参考資料②を見ますと、本当にたくさん色々なことを枚方市ではされているのに、それを市民が知らないというのはもったいないと思います。市民の方々の思っていることと、枚方市が色々と一生懸命やっていることが、うまく繋がっていないなとアンケートの自由記述からそう感じたので、それが残念なところだと思います。先ほども委員の方々がおっしゃったように、これをどういうふうに知らせていくのかという工夫が難しいところですが、これが大切なところだなと思いました。</p> <p>「アンケートの結果は、どこを見れば分かるのですか」ということも書かれていましたし、情報発信はしているけれども、その情報を取る方法を知らないのだと思います。</p> <p>また、アンケートの自由記述の中にはちらほらと「子ども食堂」のことが書かれていました。「子ども食堂」についても、是非はいろいろあると思います。大学関係でもこの話が出てきたりするのですが、そのあたりも市として何か取り組めるものがあるのなら考えてもいいのかなと思ったりしました。新聞でも枚方市の「子ども食堂」についての記事があったと思いますが、そんなのをちらっと見て、そういう「子ども食堂」が発展しなければいけない社会というのはどうなのかなという気もしますが、そういうことも市民としては、敏感に感じ取っていらっしゃるなと思いました。</p>
井上委員	<p>私の娘も20歳代なので若い世代に対する食育に関心があるのですが、やはり、20歳代、30歳代の食生活がどうかで、それ以降の生活が変わってくると思います。</p> <p>歯科の立場としては、20歳代、30代歳、40歳代までは手入れをしてもしていなくても、あまり50歳代で歯の本数は変わらないのですが、やっている人とやっていない人が50歳から60歳の間でだんだん開いてきて、60歳から急にまた残っている歯の本数が減ってきます。やはり、積み重ねなので。</p> <p>ただ、20歳代から40歳代、50歳代の人に言っても、やはり仕事で忙しいとか、なかなか難しいようで、やはりこの人たちに声を届けるためには、簡単にできてかつ安くできるというのがポイントになるので、また皆さんの知恵を貸していただければ、うまくいくかなと思いますので、またよろしくお願いします。</p> <p>以上です。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では有川委員お願いします。</p>
有川委員	<p>私は、ここ最近になって参加させていただいているのですが、各委員</p>

<p>春木会長</p>	<p>さんもおっしゃっていましたが、枚方市は本当はたくさん色々なことをやっているなというのを痛感しました。ただ、普及が、まだもう1つ足りないのかなと思いました。</p> <p>国の基本計画の中には、若い世代を中心とした食育が1番に載ってまして、大阪府の方も、子供から若年期に重点を置いた推進となっており、枚方市の方は1番目に若い世代、先ほどお聞きしたら0歳から39歳までということで、守備範囲を非常に広げられたということで、非常にそこを普及の方に力を入れられるのかなと思ひまして、今後の目標の達成とか、到達するまでに、とにかく私どももお手伝いさせていただけたらと思ひていまして、すごく期待しております。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p> <p>では、皆さん各委員から第3次計画に向けての貴重なご意見をいただきましたので、局のほうでまた検討されて、次回にブラッシュアップされた案が出てくることを期待したいと思ひます。ありがとうございます。</p> <p>それでは、案件5に進めさせていただきます。「その他」について事務局からの説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>案件5「その他」についてご説明させていただきます。</p> <p>本日お配りしております参考資料についてご紹介させていただきます。先ほどのお話の中でも少し触れられた所もあるのですけれども、改めてお伝えさせていただきます。</p> <p>参考資料①として「国の第3次食育推進基本計画（概要版）」そして、参考資料②として「各課における取り組み実績一覧」をお配りしております。また、昨年度からの取り組みとして、広報ひらかたの裏表紙に「枚方キッチン」として、ライフステージごとにお勧めするメニューのレシピを掲載しており、そのコピーをお配りしておりますので、またご覧いただけたらと思ひます。</p> <p>また、こちらの緑色の小冊子をお配りさせていただいていると思ひますが、こちらは保健企画課で発行しているものでございます。こちらにつきましては、保健企画課からご紹介させていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>保健企画課の原と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>こちらは、市民の方に外食を通じてバランスのよい食事をするすることで、健康づくりに役立てていただくという目的で、保健所と市内飲食店26店舗とコラボいたしまして、ともにヘルシーメニューを作成いたしまして、ただいま提供を行っております。</p> <p>このヘルシーメニューにつきましては、1ページにも記載があるのですが、枚方市独自の基準を定めまして、それはご飯とたんぱく質、生鮮食品と野菜を含むものということと、あと、エネルギーから野菜量までそれぞれ数値を設定した形で基準とさせていただきます。これに伴ったメ</p>

事務局	<p>ニューを保健所と市内飲食店と共同で作り上げて、各店舗で提供を行っております。</p> <p>こちらは、8月からスタートしておりまして12月まで提供がありますので、ぜひお店に足を運んでいただきたいなと思うことと、あと健康づくりを目的としておりますので、このヘルシーメニュー提供期間中、提供している時間中については禁煙ということで、禁煙にも取り組んでおります。</p> <p>あと、利用促進というか、ぜひいろいろな方に利用いただきたいということで、今年はスタンプラリーを実施しておりますので、広く市民の方に利用していただけるようにということで努めております。</p> <p>枚方市としても周知に力を入れておりますけれども、ぜひ皆様の活動の中でも周知していただき、また皆様自身もぜひご活用、ご利用いただきたいと思っておりますので、本日配らせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、別紙1をご覧ください。</p> <p>本日の会議終了後、第3次計画策定についてご意見、ご提案をいただける場合は、こちらの別紙1「第3次計画策定にかかるご意見・ご提案（回答様式）」にて9月11日（月）までに健康総務課へご提出くださいますよう、お願いいたします。</p> <p>最後に、今後の審議会のスケジュールについてですが、第3回目に当たる次回を10月に、第4回目を11月に開催したいと考えております。お手元に別紙②として、「第3回目と第4回目の日程調整表」をお配りしておりますので、ご都合を記入していただき、9月6日（水）までに健康総務課へファクスにてご提出をお願いいたします。日時が決まり次第、文書にて開催のご案内を送付させていただきます。</p> <p>以上でございます。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。今のお知らせ等につきまして、ご意見とかご質問はございませんか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、事務局から説明がありましたとおり、第3次計画について、皆様方から積極的に意見を出していただければと思います。会議終了後に何か気づいた点等がありましたら、別紙①の「回答様式」に記入の上、9月11日（月）までに健康総務課へ提出をお願いします。</p> <p>そして、今後の審議会のスケジュールについては、別紙②「日程調整表」にご都合を記入いただき、9月6日までに健康総務課へ提出をお願いしたいということです。</p> <p>それでは、本日ちょっと時間をオーバーしましたが、また、私が冒頭不在にしまして大変失礼いたしました。</p> <p>以上で、本日の食育推進計画審議会を終わらせていただきます。</p> <p>皆様、ご協力ありがとうございました。</p>

